

教育委員会定例会会議録

1 日時

平成21年5月12日(火)

開会 9時30分

閉会 11時15分

2 場所

教育委員室

3 出席者及び欠席委員の氏名

出席者 竹下謙委員長、丹保健一委員、牛場まり子委員、清水明委員、向井正治教育長

欠席者 無し

4 出席職員

教育長 向井正治(再掲)

副教育長兼経営企画分野総括室長 山口千代己

教育支援分野総括室長 真伏利典 学校教育分野総括室長 松坂浩史

社会教育・スポーツ分野総括室長 鳥井隆男 研修分野総括室長 山中良明

経営企画分野

教育総務室長 平野正人生

予算経理室長 加藤正二 予算経理室副室長 藤森正也

教育改革室長 岩間知之 教育改革室副室長 中川幸洋 教育改革室主査 森山隆弘

教育改革室主査 三谷敏央

教育支援分野

人材政策室長 増田元彦 人材政策室副室長 出口勤 人材政策室副室長 吉間禎夫

人材政策室主幹 眞崎俊明 人材政策室主幹 花岡みどり 人材政策室主査 小林誠司

5 議案件名及び採決の結果

件名	審議結果
議案第6号 平成21年度三重県一般会計補正予算(第2号)について	原案可決
議案第7号 三重県立学校における学校運営協議会を設置する学校の再指定について	原案可決
議案第8号 職員の懲戒処分について	原案可決
議案第9号 宮川高校と相可高校の統合に係る校名について	原案可決

6 報告題件名

件名
報告1 平成22年度三重県公立学校教員採用選考試験について

7 審議の概要

・開会宣告

竹下謙委員長が開会を宣告する。

・会議成立の確認

全委員出席により会議が成立したことを確認する。

・前回教育委員会(平成21年4月16日開催)審議結果の確認

前回定例会審議結果の内容を確認し、全委員承認する。

・議事録署名人の指名

丹保健一委員を指名し、指名を了承する。

・会議の公開・非公開の別及び進行の確認

議案第6号が記者発表前のため、議案第8号が人事案件のため、報告1が実施要項発表前のため非公開で審議、報告することを承認する。

会議の進行は、公開の議案第7号、議案第9号を審議した後、秘密会の議案第6号を審議し、報告1を報告し、最後に議案第8号を審議することを確認する。

・審議内容

議案第7号 三重県立学校における学校運営協議会を設置する学校の再指定について（公開）

（教育改革室長説明）

三重県立学校における学校運営協議会を設置する学校の再指定について、別紙のとおり提案する。平成21年5月12日提出、三重県教育委員会教育長。提案理由、三重県立学校における学校運営協議会を設置する学校の再指定については、三重県教育委員会権限委任規則第1条第20号の規定により、教育委員会の議決を要する。これが、この議案を提出する理由です。

学校運営協議会を設置する学校の再指定ですが、指定学校は県立紀南高等学校です。学校運営協議会につきまして、初めて耳にする委員の方もおみえになるかも分かりませんので、配付させていただいたリーフレットで簡単に説明させていただき、その後、紀南高等学校の状況を、プロジェクターで紹介いたします。

それでは、リーフレットをご覧ください。学校宣言の1ページ目ですが、学校運営協議会というものを設置している学校を「コミュニティースクール」と呼んでいます。この制度は、保護者や地域の住民、有識者などから構成される学校運営協議会を学校に設置して、皆さんの意見を学校運営に反映させますという制度です。

平成12年に教育改革国民会議というものがありません。森総理大臣のころですが、そのときに学校裁量権を拡大しよう、あるいは、開かれた学校を推進しようということで、協議会を学校に設置し、地域の方々の意見が反映された学校づくりをしようと、平成16年に法律が改正されました。

その下にコミュニティースクールのイメージがあります。学校の組織として、「学校運営協議会」を設置できる学校というものは、県教育委員会、あるいは市町村教育委員会のどちらかが指定します。指定されましたら、その学校は、学校運営協議会を設置し、委員は保護者や地域の方々になります。この委員を任命するのは、県あるいは市の教育委員会です。そして、学校運営の基本方針、例えば、教育課程、予算、組織などの基本方針を学校運営協議会に諮って、その承認を受けないことには、学校運営ができないこととなります。学校運営協議会の皆さん方は、校長が行う学校運営活動について様々な意見を言うことができます。

また、その学校の教育を良くするために、ある一定の人事に関する意見や、この学校にこんな先生を置いてほしいというような意見も、人事を決定する都道府県教育委員会に述べることができます。そして、教育委員会はその意見を踏まえ、それを尊重する義務が生じます。また、指定の取り消し、規則を作るというようなことも定められています。

紀南高校は、平成19年の6月1日に三重県教育委員会がコミュニティースクールに指定をしまして、2年間、学校運営協議会を様々な形で活用しながら、魅力ある学校づくりに取り組んできています。

では、そういった紀南高校の取組みを、平成20年度「率先実行大賞」のベスト8を受賞した時のパワーポイントの映像で紹介させていただきます。

（教育改革室主査説明）

率先実行大賞の発表で使われた資料をご紹介します。なお、原稿につきましても、その時の発表のものになります。

紀南高校は、三重県で一番南にある県立の普通科高校です。今から47年前に、地元の強い要望で設立されました。しかし、少子化、過疎化の影響を受け、募集定員は割れ、クラス数は減少し、学校は荒れていきました。そして、生徒たちも、「どうせ私たちは・・・」という状態が続きました。

そのころ、県内では高校の統廃合が行われ、紀南高校も存続の危機となっていました。そうした中で、紀南高校を大切に思う卒業生が中心となり、地元の高校を残そうという機運が高まっていきました。そして、今後の紀南高校のあり方について学校と相談し、地域とともに歩むコミュニティースクールへの第一歩を踏み出すことになりました。目指す学校像も地域の方々にも共有しやすいように分かりやすくシンプルに、「生徒には希望を」、「保護者には夢を」、「地域には信頼を」に変更しました。

それでは、紀南高校を変化させた取組みを紹介していきたいと思います。学校の先生と一緒に授業で教えてくれる教育ボランティア、また、子どもたちと机を並べて一緒に授業を受ける聴講生、地域の大人と学び

合うことで、生徒たちは落ち着きを取り戻していきました。また、地域の事業所での職業体験を通して、仕事の大変さや、人と人とのつながりの大切さを学んだり、交通安全啓発活動に積極的に参加することで、地元地域の交通事故減少に貢献し、表彰をいただきました。このことは生徒の励みになりました。その他にも幼稚園でのクリスマスコンサートへの参加、地元小中学校との交流授業、小中高での清掃活動や、地元の方々との除草作業など行っています。これらの活動を通して生徒たちは少しずつ自信が芽生え、笑顔が見られるようになって来ました。

これらの活動を支えてくれる地域の方々や学校で「学校運営協議会」が組織されています。運営協議会は学校の経営にも携わり、大切な紀南高校の応援団になってくれています。この運営協議会委員の方々や保護者、同窓生、そして元気な教職員が信頼し合える仲間となり、紀南高校を地域にプロデュースしています。このように閉鎖的と言われる学校に地域の方々が積極的に入ってきてくれたことで、紀南高校は明るく元気な学校になりました。

では、最後に生徒たちの声を聞いていただきたいと思います。

男子生徒

「こんにちは、紀南高校です。乗り気な先生が来てくれて、分かりやすく勉強できてよかったです。」

男子生徒

「いろんな人と関わることができ、いろんな経験ができて楽しいです。」

女子生徒

「たくさんの友達ができ、卒業してからも後輩に会うために紀南高校に行きたいと思います。」

「紀南高校のいいところは何ですか。」

「みんな仲良くするところです。」、「紀南高校が大好きです。」、「紀南最高」

そして、これからはこの紀南高校の生徒たちがどんどん地域に出て行くことで、紀南の風は吹いていくのです。以上で発表を終わります。

(教育改革室長説明)

このような取組みが、非常に活発になってきたきっかけが、平成19年のコミュニティスクールだったということです。

リーフレットをもう一度ご覧ください。他にどのような学校がコミュニティスクールに指定されているかというのは、3ページと4ページにあります。全国では現在、343校園です。平成19年7月1日では213校でした。

三重県におきましては、いなべ市立の石榑、立田両小学校、これは19年6月に指定しています。津市では南が丘小学校と朝陽中学校、それから、紀南高校。それ以外に御浜町立の尾呂志小中学校が指定されているという状況です。

三重県立学校における学校運営協議会の設置に関する規則があります。その規則第3条で、指定の期間を2年間と定めていまして、19年の6月1日に指定して2年が経ちますので、今回、再指定についてお願いしたいということです。

議案書の2ページをご覧ください。別記様式1、別記様式2とあり、4月24日に紀南高校の校長から申請書の提出を受けました。指定の理由を読ませていただきます。「本校は、過疎化や少子化等の影響から存続が問われる状況の下、平成19年度に学校運営協議会を設置する学校の指定を受け、地域に開かれた学校づくりに取り組み、学校の活性化と生徒や地域にとって魅力のある学校をつくるため、学校運営協議会のシステムを活用して、次の実践に取り組んだ。」

このことは、今の映像にもありましたが、学校活動に保護者や地域からの参加の機会を増やし、生徒が地域の大人と直接ふれあうことにより、社会性を向上させる。教育ボランティアや聴講生制度を導入し、授業に地域住民が参加することで、生徒の学習意欲を向上させる。地域のサークル活動や小中学校との交流に積極的に学校が参加し、地域に密着した活動を通して、地域に愛着を持つ生徒の育成や、地域から信頼される学校づくりを進めるなどです。

「2年間の取組みを通じて生徒の姿は大きく変容し、生活・学習の両面で大幅な改善が見られ、地域からも高評価を得られるようになってきた。また、学校が地域から注目を浴びることで母校を誇りに思う心が次第に芽生えつつある。卒業生の約3割は地元に残り、地域を支える人材として活躍している。同窓会・保護者・地域住民の本校や地域に対する愛着も大変深く、その意見や要望を学校運営協議会を通して学校運営に反映させることが、本校とこの地域の活性化に結びついていると確信する。」以上が再指定を願いたいという理由です。

協議会委員の推薦書ですが、年齢につきましては個人情報の観点から、白く塗ってありますけれども、こういった方々が紀南高校の応援団として支えていただいているということです。よろしく願いいたします。

【質疑】

委員長

年齢は個人情報でだめだということですか。

教育改革室長

学校とも相談したのですが、委員の方で気にされる方もおみえのようでしたので、省かせていただきました。

委員長

年齢のバランスというのも重要でしょう。高校が推薦してくるから、いいことはいいですけども、仮に年配の方ばかりになってくると、年配の方は保守的ですからね、一度やったことをそのままずっと踏襲するという傾向がありますから、若い人をどんどん入れていくべきだと思います。平均年齢は何歳くらいですか。

教育改革室長

平均年齢は出していませんが、30代の方が2人、60代の方が2人、40代の方が4人、50代の方が6名です。

委員長

それなら、バランスが取れていますね。他にどうですか。

丹保委員

パンフレットに、コミュニティースクールのイメージというのがありますね。その中に委員の任命というのは市町村教育委員会と書いてあります。委員は、市町村教育委員会が任命するわけですか。

教育改革室長

設置者が任命するということになります。県立でしたら、県の教育委員会が任命します。

丹保委員

なるほど。小学校・中学校だったら市町村ということになるのですか。分かりました。

それから、もう1つ、今の映像ですけども、紀南高校は我々も一度訪問したことがあるので、すごくすてきな雰囲気があって、非常にいい感じを受けたんですけど、具体的に、変化したことを示す数値的なものが何かあったら参考に教えてください。

教育改革室長

中々数値的なものは難しいのですが、志望者数があります。あの地域はご承知のとおり、生徒数が激減している地域ではありますが、紀南高校を希望する生徒の数が、今年は120名の募集のところ、希望者が134名と、今まで定員割れの状況だったのが変わりました。

丹保委員

そういうものがあるといいですね。そういうのがあると、もっと一般の人から見ると分かりやすいですね。この学校はすばらしくなったよ、というのは誰でも言えるんですけど、このような数値というのは、説得力があります。地元の学校に残る、地元の学校に行く学生が増えたということは、ものすごくアピールしますし、他の方々にも分かりやすいですね。大変すてきな試みですし、非常にすばらしいと思います。

委員長

前に私たちが紀南高校を訪問したときは、指定の後でしたよね。すごくいい学校のイメージがありましたので、荒れている時代じゃないだろうなと思います。

丹保委員

先ほど、委員の任命のところでも申し上げたのは、ちょっと誤解を生じやすいんじゃないかということです。

教育改革室長

このリーフレットの、コミュニティースクールそのものが、市町村立の小中学校をイメージして指定するシステムです。

丹保委員

高校はこの中に入っていないということですか。

教育改革室長

3ページ、4ページを見ていただきますと、全国でも高等学校でコミュニティースクール指定しているのが3校なのです。高知県の中芸高校、大方高校、それから、三重県の紀南高校と、3校なのです。やはり、高等学校になりますと、地域というのが広がってくることが一つありますので、なかなか設置は難しい部分もあります。ですから、その中で紀南高校は全国的にも非常に注目を集めているところがあります。

丹保委員

このリーフレットでは、県は委員を任命できないような形になっていますよね。そうすると、ちょっと矛

盾が出てきますよね。

教育改革室長

学校長が推薦を依頼して、そして県の教育委員会が任命するということになっています。

丹保委員

いやいや、それは分かっているのですが、この表を見ると、委員の任命は市町村の教育委員会しかできないとなっていますね。高校は入っていませんね。

教育長

元々、このリーフレットは小中学校用にできていたのですが、全国で3校、高校が申請してきたということです。

丹保委員

小中学校用ということですね。なるほど分かりました。県立高校は想定外ですね。

委員長

これは非常に数少ない事例ですから、新しい委員の方にもぜひ見ておいてもらう必要があると思います。そういう場を設定してもらえれば、ありがたいですね。

教育改革室長

一番南の端ですので、一日がかりになってきますが。

委員長

前回の平成19年に選ばれた委員のときは、同窓会の人とか、生徒たちとも非常にじっくりと行ってましたよね。今度も、そういうような選定をしてくれていると思いますけれども、よろしいのでしょうか。形式的に選ぶということではなくて、ちゃんと同窓会の人たちとも、うまく一緒に盛り上げていけるという人々を選んでくれていると考えていいんでしょうね。

教育改革室長

前回からの委員の方が3名います。

委員長

そうですか。やはりこの人選は非常に重要でしょうから、自分たちだけでやるというのではなくて、みんなと一緒にやってくれるような人々を任命しないといけないと思います。

他によろしいでしょうか。

【採決】

- 全委員が承認し、本案を原案どおり可決する。 -

議案第9号 宮川高校と相可高校の統合に係る校名について（公開）

（教育改革室長説明）

宮川高校と相可高校の統合に係る校名について、別紙のとおり提案する。平成21年5月12日提出、三重県教育委員会教育長。提案理由、宮川高校と相可高校の統合に係る校名については、三重県教育委員会権限委任規則第1条第20号の規定により教育委員会の議決を要する。これが理由です。

前回もご協議いただいたわけですが、校名につきまして、下記のとおりを事務局案といたしたいと思えます。理由は、「宮川・相可統合高校校名選定委員会」における検討状況を尊重するものであること。また、アンケート調査及び校名募集において、もっとも支持された校名であり、選定委員会においての全会一致で第一候補となった校名であるということで、「三重県立相可高等学校」と提案させていただきます。

現相可高校における様々な取組みは、地域と連携しながらめざましい成果を上げており、「相可」の名前は広く知られているところであります。「地域とともに歩む学校」として、生徒及び卒業生、地域の方々は、その名前に誇りと愛着を持っています。

また、統合高校は現相可高校の校地に設置されることから、その地名である「相可」が校名として相応しいと考えるものです。以上です。

なお、前回、委員長から宿題をいただいており、多気と相可の地名について資料を用意いたしました。「三重県の地名」という、平凡社から出ている本があり、その中に多気郡というのがあります。それから、多気町の教育委員会が発行しています「悠（はるか）たき」にも多気郡の記述があります。「相可」については「多気町史」に記述がありました。

多気ですけれども、古代・中世は「たけ」と読まれて「たけぐん」。その「たけ」も「竹」で、竹郡と記載されることもあったようです。近世以降の表記は、「多気」と呼ばれているということです。

古代、当郡は度会郡とともに伊勢神宮の神二郡と、飯野郡も含めて神々しい神三郡と呼ばれて、非常に栄えていたということで、この多気というのは非常に由緒ある名前であると思えます。

この「多気」の由来ですけども、多気町が次のように規定しています。太安万侶が古事記をまとめた翌年、713年、地名は二字の良い字を使って表すようにという元明天皇の詔があったとあります。これから「多」と「気」ということで、多気郡と書かれるようになったということです。

それから、「相可」ですけども、こちらのほうが相可高校になるわけで、大事なことなのかと思うのですが、相可は榊田川中流域の右岸に開け、初瀬（伊勢）本街道と熊野街道がここで交差するというので、昔から相可の宿として栄えてきました。射和もそうです。そこで相可の地名は『和名抄』というのに「阿布加」とあるらしいのですが、字はそのようにいろいろ書かれていたようです。意味は「あふ」と、二つ以上のものが一緒になる、合う、集合する、逢う、出会う、遭遇するなどです。「か」というのは、場所の意味する接尾語に多く用いられるということで、古くからの交通の要所であり、榊田川の水運にも恵まれているので、多くの人々が出会う場所、「あふか」と付けたのではないかというのが、多気町史にあります。

また、相可には豪族の「大鹿氏」がいたということなんですけども、伊勢大鹿首と、日本書紀や続日本紀の各書に出てきますので、大鹿氏が栄えていたから、そこから相可となった。この2つが考えられるということです。大鹿氏がこの辺りに非常に勢力を張っていて、そこから相可という名前になったということと、2つ以上のものが合わさるということで相可になったというふうに思われます。両郡橋の近くには相鹿上神社という神社もありますので、やはり大鹿氏の由来もあるのではないかなと思います。

熊野街道ですけども、これは、熊野のほうからずっと国道42号線を上がってきて、栃原という駅があります。その栃原のところから、田丸のほうへ行く道があり、それを熊野本道といいます。東熊野街道、いわゆる西のほうは、紀伊半島の西側をぐるっと回ります。畿内のほうから回る道と、東の街道、それから、伊勢本街道があります。これは天理のほうからきて、伊勢の興津、多気から166号線を松阪のほうへ来ますと、二手に分かれるところあり、そこからもう少し相可の両郡橋のほうに行く道、相可高校の前を通る道ですが、これが伊勢本街道です。この2つの大きな街道が出会う地域ということです。

【質疑】

委員長

ありがとうございます。この校名はどうでしょうか。前回の協議会のときは、大半というか、すべての委員が相可高校という校名に同調を示してくれていたようですから、これでいいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

校名が決まった後の話ですけども、全国的に相可というのはかなり名前広がっていますが、普通「おうか」と読めないですからね、その辺をもうちょっと村林先生にがんばってもらいたいですね。

【採決】

- 全委員が承認し、本案を原案どおり可決する。 -

議案第6号 平成21年度三重県一般会計補正予算（第2号）（非公開）

予算経理室長が説明し、委員審議のうえ決裁の結果、全委員が承認し、本案を原案どおり可決する。

報告1 平成22年度三重県公立学校教員採用選考試験について（非公開）

人材政策室長が説明し、全委員が本報告を了承する。

議案第8号 職員の懲戒処分について（秘密会）

人材政策室長が説明し、委員審議のうえ決裁の結果、全委員が承認し、本案を原案どおり可決する。